

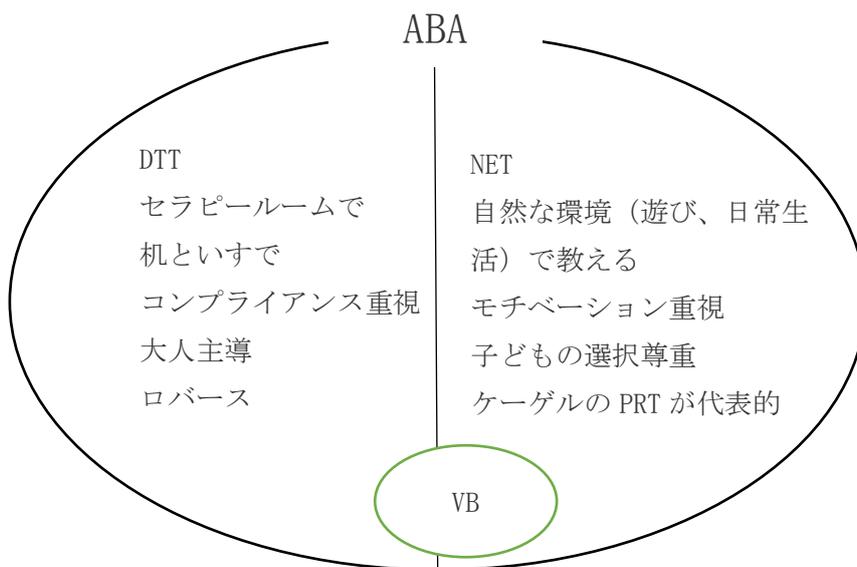
タクトって？VRって？

ABA のいろんな用語解説

2021.9.26 名古屋定例会

藤坂龍司

1. 自閉症療育の様々な流



DTT

不連続試行教授法 (discrete trial training)

不連続試行 (ディスクリートトライアル) に象徴される、ロバース博士らが開発した、ABA自閉症療育の古典的な教え方。NET派から批判されるときにこう呼ばれることが多い。

セラピールームで、典型的には机といすを使って (つまりかっちりした環境で) 教える。

コンプライアンス (大人に従う姿勢) を重視する。

セラピーは大人主導で進められる (課題もその順番も強化子も大人が決める)

課題と無関係な強化子を与える。

NET

自然環境教授法 (Natural Environmental Teaching)。ナチュラルスティック・アプローチとも。

ケーゲル博士のPRTに代表される。

遊びや食事など、子どもにとっての自然な活動の中で教える。

コンプライアンスよりも、子どものモチベーションを高めるための工夫を重視する。

子どもの選択をできるだけ尊重する。

なるべく課題と関係のある強化子 (機能的強化子) を用意する。

P R T

機軸行動発達支援法 (Pivotal Response Treatments)。ロバースの弟子、ロバート・ケーゲル博士が創始。

ロバース博士に対する批判から、上述のようなナチュラルスティックな教え方を開発した。

またすべての行動を教えなくても、機軸となるいくつかの行動 (pivotal response) を教えさえすれば、ほかの行動は自然によくなる、と提唱した。

その機軸行動とは、モチベーション、複数の刺激への反応 (色×物など)、イニシエーション (要求、質問、会話の自発)、自己管理 (自分で課題を選び、自分で自分を強化する)、エンパシー (話をするとき、相手の言うことに関心を持ち、相づちを打つ)

V B

Verbal Behavior (言語行動)。

行動分析学の創始者、スキナー博士による音声言語 (表出言語) のABA的分類・分析を障害児へのことばの教育に生かそう、という流派。特にマンド (要求言語) を重視し、セラピー初期からマンドを引き出す (音声模倣のない子は手話やPECSで)。

創始者サンドバーグ&パティントン博士が作成した課題アセスメント表、ABLLSやVBmapが人気。

2. 言語行動の分類

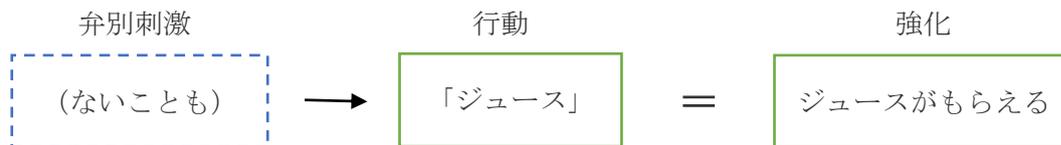
スキナーは、弁別刺激→行動→強化、の枠組みに言語行動 (表出言語) を当てはめて、その分類を試みた。

①マンド (要求)

マンドの特徴は、要求言語が、強化子を指定している、ということ。例えば「ジュースちょうだい」という要求語は、「私はジュースで強化されます」と言っているのと同じ。

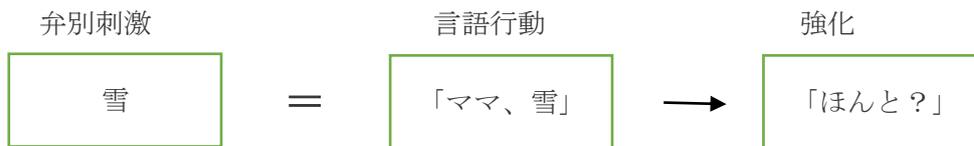
弁別刺激は様々で一定していない。弁別刺激がないこともある。

マンドは、言語行動がダイレクトに強化されるので、強化されやすく、したがって引き出しやすいと考えられ、VBではセラピー第一日からマンドトレーニングを始める。



②タクト (叙述・お知らせ)

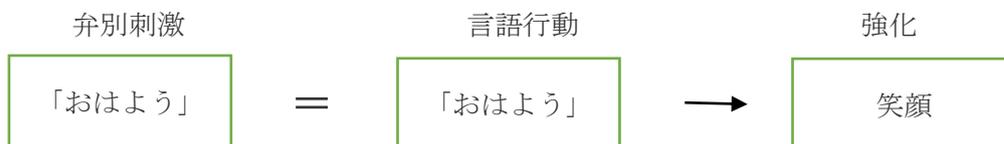
タクト (tact) は、外界の物や出来事を言葉にして、誰かに伝えること。弁別刺激 (外界の物や出来事) と行動との間に一致関係がある。強化子は様々。



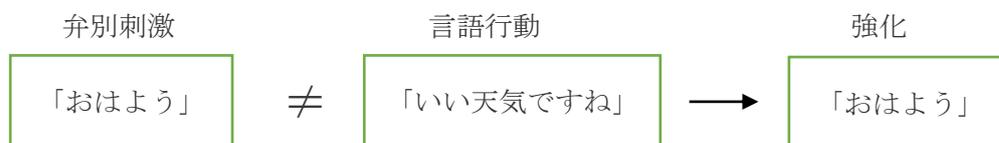
③エコーイック（オウム返し）とイントラバーバル（応答）

エコーイックとイントラバーバルは、どちらも誰かの言語行動が弁別刺激になっている。そのうち、弁別刺激となった言語行動と、反応である言語行動が内容的に一致するものがエコーイック、一致しないものがイントラバーバル。

<エコーイック>



<イントラバーバル>



3. FRとVR

強化スケジュール、つまり強化子の間引き方のパターンのこと。

FR（Fixed Ratio、固定比率強化スケジュール）は、2回に1回、3回に1回、と定期的に強化子を間引く。FR 3とは3回に一回強化する、ということ。FR 1は毎回強化。

②VR（Variable Ratio、変動比率強化スケジュール）は、強化子を不定期に間引く。VR 3とは、強化子を不定期に間引くが、平均すると3回に1回強化している、ということ。

VRの方がFRよりも、子どものモチベーションが高くなり、反応率が上がる。またVRで強化されると、消去されているときもなかなか反応が減らない（消去抵抗が大きい）。

4. 機能と随伴

（1）機能

ABAではやたらに「機能」とか「機能的」という言葉が出てくる。

「機能」は英語でFunction。Functionとは「働き」ということ。例えば問題行動の機能とは、問題行動の働きとして、どんな強化子が生まれるか、ということ。自傷行為が周囲の注目によって強化されているとき、この自傷行為の機能は注目の獲得である、という。

V Bが重視する言葉の機能もこれ。マンドはその結果として要求の実現を生み出す。マンドの機能（働き）は要求の実現だ。タクトは聞き手の共感的反応によって強化されることがある。その時、タクトの機能は共感の獲得である。

Functionは「関数」とも訳される。AとBが機能的関係にある、ということは、両者が関数関係にあるということ。つまりAが増えれば、それに応じてBも増える（あるいは減る）ということ。

（2）随伴

A B Aでもう一つ偏愛されるのが、「随伴(contingent)」という言葉。「随伴」とは「伴う」ということ。行動に強化が伴うと、その行動は増える。このとき行動に強化が随伴する、という。

特定の先行刺激の直後の特定の行動だけに強化が伴う場合、その先行刺激の後にその特定の行動が起こりやすくなる。このとき、その先行刺激はその行動のための弁別刺激になったという。そして弁別刺激に特定の行動が伴い、そのあとに強化が伴う、という三者の関係を「三項随伴性(three term contingency)」と呼ぶ。